

令和6年度

教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	41	学校名	可児高等学校
------	----	-----	--------

学校教育目標 (教育方針)	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る。	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	・自分の将来を主体的に考え、高い志と向上心をもって行動できる生徒 ・高い倫理観を身につけ、他者を尊重し協働できる生徒 ・豊かなコミュニケーション能力を備え、リーダーシップを発揮できる生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	・丁寧な教科指導と探究的な学びで基礎学力と主体的学習姿勢を育成 ・規範意識向上の取り組みや学校行事を通じて社会性と人間性を育成 ・特別活動行事や部活動を通してコミュニケーション能力とリーダーシップを養成
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	・真摯に学習に取り組み、自ら可能性を伸ばそうとする意欲的な生徒 ・コミュニケーションを大切にし、公正さと正義感を合わせもつ生徒 ・地域や国際社会で活躍したいと望む生徒
学校の抱える課題	・新学習指導要領で求められる学力の育成、大学入試の多様化への対応 ・自他の生命を尊重し、倫理感や規範意識を育む教育活動の工夫 ・学校の教育方針や教育活動の情報発信・広報活動の充実	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	・探究的な学びを取り入れ、知識・技能の習得だけでなく、粘り強く考え抜く力の育成を目指します。
	進路指導	・将来のウェルビーイングのために希望する進路が実現できるよう、「生きる力」を身に付けるためのキャリア教育推進を目指します。
	生徒指導	・他者や集団のために主体的な行動ができ、他者の模範となる生徒の育成を目指します。
	特別活動	・特別活動行事や部活動への積極的な参画を通じて、主体性、協働性、創造性の育成を目指します。

年 度 目 標					年 度 末 評 価 (自 己 評 価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け		達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学習指導	・各教科で「探究的な学び」を実践し、生徒の主体的学習姿勢を育成	8	施策Ⅱ-8	・授業評価アンケート ・探究の発表やレポート ・外部模試の成績や共通テスト結果の分析 ・学校評価アンケートの結果 ・研修の実施状況	・年間を通して教科の枠を超えたグループを作り、探究的な学びをテーマにした研修を実施した。 ・グループ内で公開授業や授業研究会を実施し、実践について情報交換や共有を行った。 ・授業評価アンケート、各クラスで毎日の学習記録(学習時間調査)を実施した。 ・学年発表会で学校運営協議会委員による講評を得た。 ・学習指導に関する学校評価の分析を実施した。	A	各教科における「探究的な学び」を念頭に置き、ICTの活用や教材、発問の工夫、生徒が協働して解決策を考える場面の設定など、「探究的な学び」を意識した授業を実践し、意見交流を行うなど、授業改善に取り組んでいます。いずれも「教員が教える授業から生徒が学ぶ授業」への転換、教員は「教える」人から「学びを支援する人」へ変わるという意識改革の推進ができた。次年度も探究を主眼に置いた授業改善を継続したい。	
	・「探究的な学び」の実践のための授業改善研修を実施	26	施策Ⅳ-26					
進路指導	・自己の適性や可能性を理解し、現在の学びと将来とのつながりが実感できるような職業体験活動や講話を実施	13	施策Ⅱ-13	・進路指導部が企画する講座や課外活動への参加数と参加後の自己評価。 ・卒業後の進路選択の分析 ・学校評価アンケートの結果	・定期考査だけでなく、外部模試などを通じて客観的な成績分析を行った。 ・昨年度に続き、生徒の興味・関心を高める土曜講座の計画、外部の講師を招くなど生徒のキャリア教育に資する放課後講座が実施できた。 ・講座毎にアンケートを実施し、次に生かす工夫ができた。 ・進路指導に関する学校評価の分析を実施した。	B	進路指導についての学校評価の肯定的な回答は、昨年度 84.9%から今年度 89.2%と約5%増加した。また中学校での学習支援ボランティアなど地域貢献活動への参加者も増加するなど学校生活の様々な場面で生徒が主体的に取組む姿が見られ、多くの成果となって現れた。また、国公立大学への進学者の割合も増加しており、引き続き生徒が主体的に学ぶ姿勢を育成したい。	B
	・科学的探究活動や国際理解教育の機会充実のため、大学や専門機関等と連携した教育活動を企画・運営	11	施策Ⅱ-11					
生徒指導	・社会人として必要な人格形成のため、安心安全な学校づくりのための啓発活動に主体的に参画する機会を創出	1	施策Ⅰ-1	・交通安全関係の啓発活動や全校集会の回数 ・意識啓発のための生徒指導通信の発行状況 ・学校評価アンケートや啓発活動実施後のアンケートによる生徒の意識変容の調査と分析	・年2回の教育相談週間、毎月心のアンケート、年3回のいじめに関するアンケートを実施した。 ・スクールカウンセラーや通級指導を活用し、生徒への細かな声掛けと教員間の情報共有を行った。 ・交通安全等の啓発活動や全校集会での話を通して意識啓発を心掛けた。特に自転車事故については、校内に発生件数を掲示し、素早い情報伝達を心掛けた。 ・ヘルメットの着用については、生徒会が中心となり、意識啓発を行った。	B	集会等の機会を通じて、定期的な交通事故、情報モラル、いじめに関する意識啓発を行い、生徒自身が自分事として考える機会を設定した。また、生徒会が中心となり、「可児高生らしさ」をテーマに校内でアンケートを実施し、その後、職員、PTAとの意見交流等の手順を踏んで、服装に関する校則改正を実現するなど、生徒が主体的に魅力ある学校作りを進めている。ヘルメットの着用についても生活委員が中心となって着用率の向上を目指している。	
	・交通事故未然防止のため、昇降口付近に事故件数を掲示するなど視覚的な交通安全の啓発活動を推進	19	施策Ⅲ-19					
特別活動	・生徒が主体的に参加できる特別活動行事を通じてコミュニケーション能力とリーダーシップを育成	1	施策Ⅰ-1	・学校評価アンケートの結果 ・行事実施後のアンケートによる生徒の充実度や参画への意識の変容の調査と分析	・生徒の活躍を期して、部活動等でのリーダー育成を目的に教職員が講座を行った。 ・生徒会が中心となり、学校をより良くするために様々な場面でアンケートを活用するなど主体的な活動を行った。 ・生徒が主体的に運営するオープンキャンパス、一日体験入学の実施し、中学生が学校生活や教育内容をより身近に感じられるような工夫をした。	A	生徒会が中心となり、体育祭・文化祭を企画・運営し、全生徒が主体者となって学校行事に積極的に参画している。また今年度の文化祭は、初めて保護者による食品バザーも開催され、保護者の理解と協力も深まり、開かれた学校づくりの推進にもつながった。学校行事についての学校評価の肯定的な回答は、昨年度 81.1%から今年度 89.9と約1割増加した。	
	・体育祭、文化祭の保護者との共同実施により、開かれた学校づくりを推進	7	施策Ⅰ-7					

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年2月12日

＜教務・進路指導＞
・学力だけでなく、自らが未来の担い手として社会で活躍できる力の育成を軸に掲げ、教務部、進路指導部が連携・主導して、授業改善、キャリア教育の更なる充実、生徒が主体的に活躍できる機会の充実を図る。
・「探究的な学び」を主眼に置いた教材研究や授業研究、評価方法についての議論を行い、引き続き「探究的な学び」をテーマにした授業改善を行い授業力向上を図る。
・保護者や地域の方々にも授業を見ていただく機会（公開授業期間）を拡充する。
・可児高校広報活動の充実・工夫（ホームページ、地域回覧版、可児市内各種施設への可児高だより設置、中学校・塾などへの訪問等）を継続する。
＜特別活動・探究＞
・2年目となる体育館での体育祭、文化祭の充実を図るとともにPTAと協体制を構築する。
・生徒会活動を中心に生徒が主体的に学校改革に参画する活動を企画・運営する。
・探究活動の見直しと持続可能な計画・実施、各教員へのノウハウの共有を図る。
・海外研修（ベトナム）の円滑な実施と校内への還元方法を検討する。
＜教育相談・生徒指導＞
・ヘルメットの着用率向上に向けて、生徒が自ら命を守るという意識の転換を図る指導を実践する。
・生徒指導通信の充実（ホームページへの掲載なども含む）を図るとともに、集会等を通じて、学校生活の質の向上、情報モラルやいじめに関する指導を徹底する。
・特に入学後間もない新1年生の指導（交通安全・情報モラル・SOSの出し方など）を丁寧に行う。
・担任、学年団、教科担任等の生徒情報共有と生徒指導部と教育相談部との連携を強化する。
・スクールカウンセラーや通級指導等の適切な活用で個に応じた柔軟な対応に努める。

学校関係者評価

実施日：令和7年2月12日

・「豊かな人材の輩出と、高い進路目標の実現を目指す高校として、確かな学力の修得と主体的な活動を通して、多様な社会を支えるリーダーの育成を目指す学校」とのスクールミッションにあらためて可児高校の目指すべき目標が明確になった。主体的な活動という面では、生徒が自ら興味関心をもって様々なことに取り組んでおり、特に探究活動において、自ら地域に飛び出して実際に様々なイベントに参加したり、話を聞いたりととても良い経験を積んでいる。
・可児高校は前と学校の様子が変わったという話を耳にすることが多くなった。毎回の会議で授業参加をしているが、教職員が生徒の将来を考え、主体的な学びを実現しようと働きかけてくれている姿があり、本当に頼れる学校だと思っている。
・学校運営協議会で1年間の教育活動を振り返るのスライドを見せてもらったが、写真に写る生き活きた生徒の姿から伝わってくる可児高校の全てを表していると感じた。教員も生き活きと授業をし、生徒もその姿を見て楽しそうに学校生活を送っており、教員と生徒の関係が非常に良い。
・土曜講座などで、生徒が勉強だけでなく、様々な分野に興味をもち、世界を広げられるのはとても良い経験になっている。先生方は大変だと思うが続け是非続けていてもらいたい。
・総合的な探究の時間の2年生学年発表に参加して代表の5つの発表を聞かせてもらった。流暢な英語での発表や「防災」という身近でとても大切な研究、自分の興味をどこまで深めるユーモア溢れる探究など、本気で取り組めるのも今の可児高校の良さである。また、部活動（テニス部）の探究では、科学的な視点から研究し、実際の技術向上につなげるという実用的な探究である。また「発音」を物理学の分野から、さらに細かく、自分なりに追求して、調べていき、「言語の学習」につなげたいとの考えが素晴らしい。これからも身近な疑問に対して、関心をもち、調べていくことを続けてもらいたい。その際には、様々な情報が正しいものかどうかを見分ける力を付け、正しい情報源から正しい情報を得てもらいたい。そして、一番大切なことは自分のやりたいことを自分で見つけていくこと、それを是非、忘れないでほしい。